

認知症予防研究班

Dementia Prevention Research Group

研究テーマ

Research Themes

- ・ 運動・認知課題を含めた複合プログラムによる認知症発症予防手法の確立
- ・ 入院患者に対する認知症発症・進行リスク因子の同定と予防手法の確立
- ・ せん妄に対する評価と非侵襲的脳刺激を用いた治療手法の確立

研究班の活動内容

Research Group Activities



認知症対策は社会及び個人にとって重要な課題である。平成29年度高齢者白書によると、2012年には認知症患者数が約460万人であり高齢者人口の15%という割合であった。2025年には5人に1人、20%が認知症になるという推計もある。このようななか認知症を発症させないこと、また認知症の進行を予防させない手法を確立することが重要である。

認知症発症因子には若年期の教育歴、中年期の聴力低下、頭部外傷、高血圧、喫煙、大気汚染、糖尿病、運動など多因子が関与することが明らかとなっている。
(Lancet. 2020 Aug 8;396(10248):413-446.)

このような背景のなか、本研究班では運動療法を主体とした認知症発症・進行予防手法を確立することを目的とし、運動療法と認知課題の複合プログラムによる認知症発症予防手法の確立を目指している。
また、特に入院患者に対する認知症発症・進行のリスク因子とその予防手法の確立をテーマとしている。入院中のせん妄の発症は認知機能予後の不良だけでなく生命予後の不良とも関連していることが明らかになっており、新たな評価や治療手法の確立に取り組んでいる。



アドバイザー	小林 一成	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
リーダー	木下 翔司	東京慈恵会医科大学附属病院
メンバー	武原 格	東京都リハビリテーション病院
	辰濃 尚	東急病院
	竹川 徹	東京慈恵会医科大学附属柏病院
	宮村 紘平	河北リハビリテーション病院
	山田 尚基	東京慈恵会医科大学附属第三病院
	高木 聡	品川リハビリテーション病院
	坪井 麻里佳	総合東京病院
	長谷川 雄紀	総合東京病院
	栗山 千秋	東京慈恵会医科大学附属病院
	奥山 由美	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
	尾崎 尚人	季美の森リハビリテーション病院
	小田 隆之	東京慈恵会医科大学附属柏病院
	三浦 しおり	東京慈恵会医科大学附属柏病院



研究班リーダー

木下 翔司 助教